

謝辞

本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、学長をはじめ、ご多用の中ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、教職員の皆様ならびにご家族など関係者の皆様に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

私たちは、緊急事態宣言が発せられた2020年の4月に、大きな期待と溢れそうな不安を胸いっぱいを感じながら大阪成蹊大学教育学部に入学して参りました。世界中の全ての国が混乱状態にあるなか、それぞれが「生きること」に対する意義や希望を改めて感じながら、不慣れなオンライン機能を使って学びに励んだことがつい昨日のこのように思い出されます。教職員の皆様が、常に親身になってサポートしていただいたことは、私たちの励みとなり、今もなお温かいまま鮮明に記憶しております。また、ゼミでお世話になった橋本先生や、教職キャリアセンターの先生方をはじめ、多くの先生方からの手厚いサポートのもと、仲間たちと一緒に想いや空間を共有しながら乗り越えた教員採用試験対策も、1日1日がかげがえのない時間の積み重ねだったと感じております。改めて、心より感謝申し上げます。

私は、特別支援学校教諭免許と学校図書館司書資格を所有する小学校教諭を目指して学修に励んで参りました。1年次から子どもたちのいる教育現場に通い、大学の講義で学んだ理論や実践方法を、教育現場の実態と結びつけながら学ぶことができるという恵まれた環境のなかで、自らの教育観の素地を培うことができました。先行き不透明な世の中だからこそ、それぞれの子どもたちが、自らの存在を大切に思い、互いの特性や共通性を尊重し合うことで心理的な居場所を創造できるのではないかと考え、個性の尊重がどのように集団づくりに馴染むのかを模索し続けました。ダイバーシティが達成すべき価値観として広く注目されている現代のなかで、義務教育が担う役割には非常に大きな可能性があるかと確信しています。教育の目的には単なる知識技能の習得にとどまらず、子どもたちの「生きる力」の育成に寄与することも挙げられます。私は、教育というアプローチの仕方で、この世の中と誠実に関わっていきます。

大阪成蹊大学の全面サポートのもと、しっかりと掴むことのできた自らの夢を、新たな夢の入り口として自覚し、学生生活で得たものを子どもたちの未来へ丁寧に繋げていくことによって、私は大阪成蹊大学や今まで関わってくださった皆様方に恩贈りができると考えております。卒業後も「建学の精神」を羅針盤として、自ら描いた道筋で、人を希望や可能性へと導く蹊を創造していくため、自分自身の目の前や足元をしっかりと捉えながら、これからも日々学び続けて参ります。

やむを得ず中止となった入学式の日から約4年が経過し、本学の学生として過ごす最後の日に、初めて皆様方とこうして集うことができたことを、大変嬉しく思います。最後になりましたが、実りある学生生活のためにご尽力いただきました教職員の方々、様々な思いを持ちながら温かく見守り支えてくださったご家族など関係者の皆様に、卒業生を代表して、厚く御礼申し上げます。本日ご臨席を賜りました皆様方の心身のご健康と、今後の大阪成蹊大学の益々のご発展を心よりお祈りいたしまして、卒業生代表挨拶とさせていただきます。

令和6年3月18日
大阪成蹊大学 卒業生代表
教育学部 教育学科 初等教育コース
和田あゆみ